様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	岩手県立農業大学校
設置者名	岩手県

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
本科	農産園芸学科	夜・通信	（農産経営科）６３単位	６単位	
		夜・通信	（野菜経営科）６３単位	６単位	
		夜・通信	（果樹経営科）６３単位	６単位	
		夜・通信	（花き経営科）６１単位	６単位	
	畜産学科	夜・通信	（酪農経営科）３８単位	６単位	
		夜・通信	（肉畜経営科）３８単位	６単位	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

岩手県立農業大学校ホームページにて公表 https://www.pref.iwate.jp/agri/noudai/gakkosyokai/2001554/index.html

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－②【⑵-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第２号の２－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	岩手県立農業大学校
設置者名	岩手県

１．大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	岩手県立農業大学校外部評価懇談会
役割	・学校運営の改善を図るため、学校が定めた教育目標の達成に関する学校評価について有識者から意見を聴取する。 ・意見を反映させ、学校運営の改善措置を講ずる。

２．外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
岩手県立大学総合政策学部教授	令和５年６月～令和６年３月	学識経験者
岩手県高等学校教育研究会農業部会長	令和５年６月～令和６年３月	学識経験者
ＪＡいわてグループ農業担い手サポートセンター長	令和５年６月～令和６年３月	農業関係機関
岩手県認定農業者組織連絡協議会長	令和５年６月～令和６年３月	農業関係機関
岩手県農業農村指導士協会長	令和５年６月～令和６年３月	農業農村指導士
岩手県農村青年クラブ連絡協議会長	令和５年６月～令和６年３月	青年農業者
岩手県立農業大学校同窓会長	令和５年６月～令和６年３月	卒業生代表（卒業生）
岩手県立農業大学校父母の会長	令和５年６月～令和６年３月	父母等代表（父母等）
（備考）		

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岩手県立農業大学校
設置者名	岩手県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

・　授業計画の作成について
　履修科目毎に、授業形式や学習事項、到達目標、成績評価方法等を記載した授業計画を作成し、各年度の内容について、学生や職員等に周知している。

・　授業計画の公表について
　３月下旬に作成し、岩手県立農業大学校ホームページにて公表している。
https://www.pref.iwate.jp/agri/noudai/gakkosyokai/2001554/index.html

授業計画書の公表方法	農業大学校ホームページ

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
「岩手県立農業大学校校則」、「本科教育要領」及び「成績処理内規」において、成績評価及び卒業認定をしている。

（１）講義について
①　成績の評価は、各履修科目とも、授業計画（シラバス）で設定した成績評価の方法に基づき、定期試験の成績や出席状況、レポート等により 100 点満点で行い、80 点以上を「優」、65 点以上を「良」、50 点以上を「可」、50 点未満を「不可」としている。

（２）実習について
①　実習の評価は、100 点満点で行い、80 点以上を「優」、65 点以上を「良」、50 点以上を「可」、50 点未満を「不可」としている。
②　評価項目については以下のとおり。

評価項目	評価割合	摘　　要
ア　平常点	40%	平常点　出席状況：50% 減点法遅刻１回：0.5 点 欠席１時間につき：１点 参加の状況：50%
イ　習熟度	60%	習熟度　技術・技能の到達度 計画作成・発表・伝達の能力 レポート・小テスト等

（３）卒業研究について

① 卒業研究の評価は、100 点満点で行い、80 点以上を「優」、65 点以上を「良」、50 点以上を「可」、50 点未満を「不可」としている。

② 評価項目については以下のとおり。

評価項目	評価割合	摘　　要
ア　平常点	40%	調査・検査、データ整理、文献考証等の取組状況
イ　論文	60%	目的設定と成績、理論構成と表現、内容等

上記の（１）～（３）等の結果を職員会議（成績判定会議）で判断のうえ、適正に評価し、単位認定している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

・　成績評価：定期試験、学習態度、出席状況を総合して行う。

・　成績評価の実施時期：前期(9 月、10 月)及び後期（2 月）

・　成績分布状況の把握：履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出

・　岩手県立農業大学校ホームページにて公表
https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/001/554/r02seisekihyouka.pdf

客観的な指標の算出方法の公表方法	農業大学校ホームページ

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

〔卒業の認定方針〕

・　岩手県立農業大学校ディプロマ・ポリシーのとおり。
（岩手県立農業大学校ホームページで公表）
https://www.pref.iwate.jp/agri/_res/projects/project_agri/_page_/002/001/554/r02diplomapolicy.pdf

・　所定の履修科目を履修した学生に対し、教職員会議（成績判定会議、進級・卒業判定会議）を経て、校長が単位取得を認定し、卒業の認定を行う。

〔卒業の要件・判定の手順〕

・卒業に必要な所定の単位数は「農業大学校条例施行規則第５条」で定めている。

・卒業の認定については、所定の履修科目を履修した学生に対し、校長が卒業を認定する旨を「農業大学校校則第７条」で定めている

卒業の認定に関する方針の公表方法	岩手県立農業大学校ホームページ

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	岩手県立農業大学校
設置者名	岩手県

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
農業		本科	農産園芸学科	○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	単位時間／単位 経営科毎下記のとおり	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100 人	68 人	0 人	8 人	4 人	12 人

農産園芸学科　経営科別内訳
　農産経営科

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
農業		本科	農産園芸学科 （農産経営科）	○	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	海外農業研修選択 2,445 時間／107 単位 国際農業選択 2,415 時間／107 単位	海外 1,185 時間 国際 1,155 時間 /77 単位	45 時間 /3 単位	1,290 時間 /31 単位	時間 /単位	30 時間 /1 単位
			海外農業研修選択　2,550 時間／112 単位 国際農業選択　2,520 時間／112 単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
農産園芸学科の内数	21 人	0 人	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数

野菜経営科

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
農業	本科	農産園芸学科 (野菜経営科)	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	海外農業研修選択 2,445 時間／107 単位 国際農業選択 2,415 時間／107 単位	海外 1,185 時間 国際 1,155 時間 /77 単位	45 時間 /3 単位	1,290 時間 /31 単位	時間 /単位	30 時間 /1 単位
			海外農業研修選択 2,550 時間／112 単位 国際農業選択 2,520 時間／112 単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
農産園芸学科の内数	25 人	0 人	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数

果樹経営科

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
農業	本科	農産園芸学科 (果樹経営科)	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	海外農業研修選択 2,445 時間／107 単位 国際農業選択 2,415 時間／107 単位	海外 1,185 時間 国際 1,155 時間 /77 単位	45 時間 /3 単位	1,290 時間 /31 単位	時間 /単位	30 時間 /1 単位
			海外農業研修選択 2,550 時間／112 単位 国際農業選択 2,520 時間／112 単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
農産園芸学科の内数	15 人	0 人	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数

花き経営科

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
農業	本科	農産園芸学科 (花き経営科)	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	海外農業研修選択 2,445 時間／105 単位 国際農業選択 2,415 時間／105 単位	海外 1,140 時間 国際 1,110 時間 /74 単位	45 時間 /3 単位	1,200 時間 /29 単位	時間 /単位	165 時間 /4 単位
			海外農業研修選択 2,550 時間／110 単位 国際農業選択 2,520 時間／110 単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
農産園芸学科の内数	7 人	0 人	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数	農産園芸学科の内数

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">農業</td><td>本科</td><td colspan="2">畜産学科</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">時間／単位
（経営科毎下記のとおり）</td><td>単位時間/単位</td><td>単位時間/単位</td><td>単位時間/単位</td><td>単位時間/単位</td><td>単位時間/単位</td></tr>
<tr><td colspan="5">（経営科毎下記のとおり）</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">40 人</td><td>23 人</td><td>0 人</td><td>4 人</td><td>3 人</td><td>7 人</td></tr>
</table>

畜産学科　経営科別内訳

酪農経営科

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">農業</td><td>本科</td><td colspan="2">畜産学科
（酪農経営科）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">海外農業研修選択
2,475 時間／111 単位
国際農業選択
2,445 時間／111 単位</td><td>海外
1,245 時間
国際
1,215 時間
/81 単位</td><td>45 時間
/3 単位</td><td>1,200 時間
/29 単位</td><td>時間
/単位</td><td>30 時間
/1 単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">海外農業研修選択　2,520 時間／114 単位
国際農業選択　2,490 時間／114 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">畜産学科の内数</td><td>8 人</td><td>0 人</td><td>畜産学科の内数</td><td>畜産学科の内数</td><td>畜産学科の内数</td></tr>
</table>

肉畜経営科

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">農業</td><td>本科</td><td colspan="2">畜産学科
（肉畜経営科）</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">海外農業研修選択
2,475 時間／111 単位
国際農業選択
2,445 時間／111 単位</td><td>海外
1,245 時間
国際
1,215 時間
/81 単位</td><td>45 時間
/3 単位</td><td>1,200 時間
/29 単位</td><td>時間
/単位</td><td>30 時間
/1 単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">海外農業研修選択　2,520 時間／114 単位
国際農業選択　2,490 時間／114 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td>専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">畜産学科の内数</td><td>15 人</td><td>0 人</td><td>畜産学科の内数</td><td>畜産学科の内数</td><td>畜産学科の内数</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・　授業方法　各経営科の生産から販売に至る実際の流れに沿って学校内外の教材を活用し進める。（講義、実習、実験、事例研究） ・　履修科目別教育内容 ア　教養科目（人文社会系、自然科学系） イ　学科専門科目（農業生産技術、流通・経営管理技術、農村生活文化） ウ　経営科専門科目（経営科ごとの専門分野における生産技術、流通、経営管理技術、専攻実習、卒業研究） ・　年間授業計画 １年次：一般教養及び農業、農村社会に関する専門科目の学習視点を養成 ２年次:より高度な理論及び専門技術を履修し、実践プロジェクトを通して生産・経営の総合的技術力の向上
成績評価の基準・方法
（概要） 定期試験、学習態度、出席状況を総合して行う。 成績判定会議の実施時期　前期(9 月、10 月)及び後期（2 月）
卒業・進級の認定基準
（概要） ・　岩手県立農業大学校ディプロマ・ポリシーのとおり。 （岩手県立農業大学校ホームページで公表） https://www.pref.iwate.jp/agri/ res/projects/project agri/ page /002/001/554/r02diplomapolicy.pdf ・　所定の履修科目を履修した学生に対し、教職員会議（成績判定会議、進級・卒業判定会議）を経て、校長が単位取得を認定し、進級・卒業の認定を行う。 ・　進級、卒業に必要な単位数は以下のとおり。 農産園芸学科（花き経営科除く）・・進級 60 単位、卒業に必要な単位 107 単位 農産園芸学科（花き経営科）・・・・進級 59 単位、卒業に必要な単位 105 単位 畜産学科・・・・・・・・・・・・・・進級 64 単位、卒業に必要な単位 111 単位
学修支援等
（概要）（概要） ・　基礎学力の定着支援 基礎学力調査を 4 月に実施、その結果に基づき教育指導委員会において数的処理の課外授業を実施し基礎学力の定着を支援する。 ・　プロジェクト学習への指導 課題解決プロセスの取得及び応用力の向上のため、プロジェクト学習として卒業研究に取り組んでいるところである。 教員において学生個々の課題設定や研究企画、実施、成果発表、報告書作成などの一連の支援を実施する。 ・　学生支援相談チームの設置及び相談、指導等対応 学生個々の目指す進路の実現に向け、特別な支援を必要とする学生への対応を行うため、学内に学生相談支援チームを設置する。

学生の個別相談に応じるほか、学内での情報共有を図り、必要に応じ専門機関に協力を依頼するなど、ケースに沿った対応を図る。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
農産園芸学科			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33 人 （100%）	2 人 （　6.1%）	30 人 （90.9%）	1 人 （　3.0%）
（主な就職、業界等） 農業(自家就農)、農業法人就職(雇用就農)、農業関係団体、農業関連企業			
（就職指導内容） ・　進路希望アンケートの実施（年３回）による個別カウンセリング ・　教養科目「教養基礎演習」の実施による実践的な就職活動指導 ・　面接指導等の実施 ・　無料職業紹介事業			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本農業技術検定(2 級)2 人、（3 級）3 人 ／ 大型特殊自動車免許 6 人（うち農耕用限定 1 人）／けん引 2 人（うち農耕用限定 1 人）／ アーク溶接 7 人 ／ ガス溶接 11 人 ／ フォークリフト運転技能 14 人 ／ 小型車両系建設機械 6 人／ 毒物劇物取扱者 3 人 ／危険物取扱者（乙 4）6 人 【花き経営科のみ】 フラワー装飾技能証　3 人			
（備考）（任意記載事項）			

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
畜産学科			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む）	その他
16 人 （100%）	0 人 （　0%）	16 人 （　　100%）	0 人 （　　0%）
（主な就職、業界等） 農業(自家就農)、農業法人就職(雇用就農)、農業関係団体、農業関連企業			
（就職指導内容） ・　進路希望アンケートの実施（年３回）による個別カウンセリング ・　教養科目「教養基礎演習」の実施による実践的な就職活動指導 ・　面接指導等の実施 ・　無料職業紹介事業			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本農業技術検定(2 級)1 人、（3 級）6 人／ 大型特殊自動車免許 12 人（うち農耕用限定 3 人）／ けん引 8 人（うち農耕用限定 5 人）／ アーク溶接 3 人 ／ ガス溶接 9 人 ／ フォークリフト運転技能 8 人 ／ 小型車両系建設機械 3 人 ／危険物取扱者（乙 4）2 人 ／ 家畜人工授精師 15 人 ／ 家畜商 3 人／２級認定牛削蹄師 4 人			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
102　人	2 人	2.0%
（中途退学の主な理由） 一身上の都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・　学生支援相談チームの設置及び相談、指導等対応 ・　スクールカウンセラーを設置し、学生へのカウンセリングを実施		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考（任意記載事項）
農産経営科	5,650 円	118,800 円	790,000 円	その他は学生諸経費（1 年次）
野菜経営科	5,650 円	118,800 円	790,000 円	
果樹経営科	5,650 円	118,800 円	810,000 円	
花き経営科	5,650 円	118,800 円	820,000 円	
酪農経営科	5,650 円	118,800 円	770,000 円	
肉畜経営科	5,650 円	118,800 円	750,000 円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				
農業大学校条例により、授業料等の全部または一部の免除について規定あり。				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ・　岩手県立農業大学校ホームページにて公表 https://www.pref.iwate.jp/agri/noudai/gakkosyokai/2001554/index.html
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校評価の実施概要 ・　学校評価アンケートの実施（２月） ・　主要達成目標に関する自己評価を実施（６月） ・　自己評価結果に基づき外部評価懇談会により外部評価を実施（２月） ・　自己評価及び外部評価の結果を公表（３月） ・　外部評価結果に基づき学校運営改善を実施（随時） 学校評価項目 農業大学校業務方針のうち、主要課題達成項目 ・　新規就農者の確保、育成 ・　多様な担い手の育成 ・　農大の機能強化推進 学校評価アンケートの項目、対象

上記主要課題達成項目のうち、新規就農者確保、育成及び農大の機能強化推進に関する項目について基礎資料を得るため、細項目 24 項目を設定し、それぞれ学生、保護者、職員にアンケートを実施

評価委員会の構成

岩手県立農業大学校外部評価懇談会運営要領第３により、次の職にある者に委嘱している。

- 岩手県立大学総合政策学部教授
- 岩手県高等学校教育研究会農業部会長
- ＪＡいわてグループ農業担い手サポートセンター長
- 岩手県認定農業者組織連絡協議会長
- 岩手県農業農村指導士協会長
- 岩手県農村青年クラブ連絡協議会長
- 岩手県立農業大学校同窓会長
- 岩手県立農業大学校父母の会長

学校評価アンケートの活用

外部評価懇談会の意見を反映し、学校運営改善を実施

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
岩手県立大学総合政策学部教授	令和５年 11 月～令和６年３月	学識経験者
岩手県高等学校教育研究会農業部会長	令和５年 11 月～令和６年３月	学識経験者
ＪＡいわてグループ農業担い手サポートセンター長	令和５年 11 月～令和６年３月	農業関係機関
岩手県認定農業者組織連絡協議会長	令和５年 11 月～令和６年３月	農業関係機関
岩手県農業農村指導士協会長	令和５年 11 月～令和６年３月	農業農村指導士
岩手県農村青年クラブ連絡協議会長	令和５年 11 月～令和６年３月	青年農業者
岩手県立農業大学校同窓会長	令和５年 11 月～令和６年３月	卒業生代表(卒業生)
岩手県立農業大学校父母の会長	令和５年 11 月～令和６年３月	父母等代表（父母等）

学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

- 岩手県立農業大学校ホームページにて公表
  https://www.pref.iwate.jp/agri/noudai/gakkosyokai/2001554/index.html

第三者による学校評価（任意記載事項）

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

- 岩手県立農業大学校ホームページにて公表
  https://www.pref.iwate.jp/agri/noudai/index.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H103238100013
学校名（○○大学 等）	岩手県立農業大学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	岩手県

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		28人	26人	29人
内訳	第Ⅰ区分	15人	16人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				29人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	人	0人	0人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	人	0人	0人
ＧＰＡ等が下位４分の１	人	－人	－人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	－人	－人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。